

編集後記

今年は暖冬で桜の開花が早かったのですが、4月半ばの寒の戻りでは満開の桜に雪が積もった地域もありました。それでも桜前線は順調に4月末には東北北部から津軽海峡を渡り、5月中旬には道北や道東でも開花が見込まれます。開花といえば、前号でご紹介したガラスマメですが、無事に数株が越冬して、可憐な花を咲かせました。いわゆる旗弁は白に近い地肌に薄い青の縞模様が入り、翼弁は鮮やかな濃いブルー。コントラストが鮮やかで、これからどのような実を付けるのかが楽しみです。

さて、我が国の伝統行事での「食」には、必ず豆が登場します。この時期の代表は端午の節句の柏餅（かしわもち）でしょう。東北・北陸・山陰地方などでは端午の節句に「ちまき」を用いることが多いのですが、それ以外の地域では柏餅が主役のようです。その柏餅も、近畿圏以西ではサルトリイバラの葉を用いて包み、「しばもち」と呼ぶ地域もあるなど、実に多様です。一説によれば、古くはサルトリイバラの葉が広く使われていたものが、江戸時代に多量の葉を集める必要に迫られて代用品としてカシワの葉を用いるようになったそうです。餡の種類も、つぶあん、こしあんのほか、みそあんもあり、餡を包む餅の部分も、上新粉や白玉粉を使ったポピュラーなもののほか、よもぎ餅もあります。そういえば、愛媛の実家で幼少の頃に食した柏餅には、茶色いタイプもありました。今となっては確かめようがないのですが、はだか麦の粉（はったい粉）を使っていたのかも知れません。この餡の原料となる小豆ですが、4月上旬には30kg当たりの価格が2万円と前年同期の4割高となっています。在庫不足の影響が残る中で、主産地である北海道の18年産が不作となったため、同様に大豆の入札価格も全体が前年同月比で1割程度上昇している中、北海道の納豆用の小粒品種では2倍超に高騰しています。農作物の生産は天候に左右されますので、ある程度の豊凶変動は避けられませんが、近年ではIT技術を活用した生育予測システムの開発が進み、スマホなどでインターネットに接続すると、蓄積された気象データを基に圃場単位で生育予測を行なうことが可能になってきました。このような新技術の普及によって、生産の安定・平準化を実現したいものです。

気象庁が平成31年4月24日に発表した3ヶ月予報によれば、沖縄・奄美以外の地域では5月～7月の気温は平年並で、降水量は6月が少なめ、7月は多めの見込みのようです。豆類などの農作物が、無事に生育して豊穰の秋を迎えることを期待したいものです。

(矢野 哲男)

発行

公益財団法人 日本豆類協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13

三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071

FAX：03-5570-0074

豆 類 時 報

No. 95

2019年6月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13

三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845

FAX：03-3584-1757
